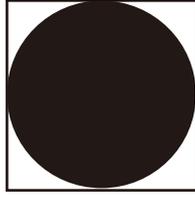


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 172

2024. 9

〒113-0033 東京都文京区本郷2-30-14 文京ビル206号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 大坪圭輔

ニュース担当 矢澤 聡

E-mail: info@insea-in-japan.or.jp

「描く」と「撮る」は同じなのか？

公益社団法人 日本美術教育連合理事 西村 德行

真夏のある日、近所の子どもがタブレットでアサガオを撮影していた。太陽はずいぶん高いところに昇り、立っているだけで汗が噴き出してくる。その子は大人用のスリッパを引きずりながらアサガオの鉢の前に来ると、パシャリと一枚撮影し一目散に家の中に戻っていった。

「夏休みの宿題」といえば、昔もアサガオの観察があった。学校で種をまき、早く芽が出ないかと毎日水やりをする。発芽することばかりを考えていると、土の表面が少し変化しただけで「発芽した！」と大騒ぎである。周りの友だちのアサガオが、つぎつぎと発芽していくなか、自分だけ取り残された何ともいえない気持ちが懐かしい。それだけに発芽したときの感動は格別であった。発芽して双葉が開き、つづいて本葉が出てくる。茎や本葉と違う「ツル」の出現は特別なものがあった。その後もツルを支柱に絡ませながら、アサガオはどんどん成長していく。その様子を、毎日のように観察日記に描いていた。観察日記を描いていると、アサガオの微妙な変化に気付く。昨日は伸び始めて中空をさまよっていた「ツル」が、次の日にはもう周りの棒にしっかりと絡んでいた。そしてクライマックスは開花である。最初はつぼみの形もつぼみがつくところもあまりよくわからないが、ある日「これだ！」と確信できる小さなつぼみが現れる。最初は小さなつぼみも、開花数日前になると急にふくらみ、そしてある朝、大きな花となって開花する。発芽したときとはまた違う喜びがそこにはあった。

かつては汗を垂らしながら色鉛筆で描いていた観察日記は、今やタブレットでパシャリと画像を撮ることに変わっている。確かにアサガオを記録するという点では、同じなのかもしれない。しかしあの近所の子は、アサガオの微妙な変化に気付いているのだろうか？何よりも変化に気付いた感動を味わっているのだろうか？ICTをはじめとする教育界への新しい「道具」の出現は、私たちの教育観が誠されている感すらある。「観察日記はそもそも何のために描いていたのか？」あらためて考えさせられた瞬間であった。

第58回 日本美術教育研究発表会2024 案内

- 日 時：令和6年（2024）年10月6日（日）9：00－16：30（予定）
- 場 所：明治学院大学 白金キャンパス 対面+Zoomオンライン上（ハイフレックス）
対面を基本とするオンラインリアルタイム配信
- 主 催：公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）
- 後 援：文化庁

※最新情報は、日本美術教育連合HPに掲載されますので、ご確認ください

公益社団法人 日本美術教育連合 第8期 理事会・運営委員会 任期：令和6（2024）年5月13日～令和8（2026）年5月開催予定第16回定時総会			
理 事 会			
理 事 長		大 坪 圭 輔	統括
理 事		手 塚 千 尋	研究局担当
理 事		西 村 徳 行	国際局担当（事務局財務担当兼任）
理 事		畑 山 未 央	事務局担当
理 事		三 澤 一 実	事業局担当
監 事		榎 原 弘二郎	
監 事		結 城 孝 雄	
運 営 委 員 会			
研究局 公益目的事業 1	理 事	手 塚 千 尋	研究局運営委員長
	運営委員	池 田 吏 志	論集編集委員会副委員長
	運営委員	笠 原 広 一	（国際局運営委員兼任）
	運営委員	小 林 貴 史	
	運営委員	竹 内 晋 平	
	運営委員	立 川 泰 史	論集編集委員会委員長
	運営委員	山 田 一 美	
	局 員	家 崎 萌	
	局 員	藤 井 康 子	
	局 員	廖 曦 彤	
国際局 公益目的事業 2	理 事	西 村 徳 行	国際局運営委員長
	運営委員	笠 原 広 一	（研究局運営委員兼任）
	運営委員	片 桐 彩	InSEA評議員
	運営委員	山 田 猛	
	局 員	佐 藤 真 帆	
事業局 公益目的事業 3	理 事	三 澤 一 実	事業局運営委員長
	運営委員	大 杉 健	
	運営委員	岡 田 京 子	
	運営委員	佐々木 敏 幸	
	運営委員	佐 藤 牧 子	
	運営委員	茂 木 克 浩	
	局 員	井 上 昌 樹	
	局 員	小 西 悟 士	
事務局	局 員	山 田 空	
	理 事	畑 山 未 央	法務担当
	理 事	西 村 徳 行	財務担当（国際局運営委員長兼任）
	事務局長	岩 崎 仁 美	事務局長
	運営委員	矢 澤 聡	ニュース担当
	運営委員	大 櫃 重 剛	ホームページ担当
局 員	川 人 武		

研究局より

■第58回 日本美術教育研究発表会2024【最終案内】■

公益社団法人日本美術教育連合理事 研究局運営委員長 手塚千尋

大会概要

- 開催日時：令和6年（2024）年10月6日（日） 8:45（受付開始）－16:00（閉会式）
- 会場：明治学院大学白金キャンパス 本館（東京都港区白金台1-2-37）
交通アクセス <https://www.meijigakuin.ac.jp/access/>
キャンパス案内 <https://www.meijigakuin.ac.jp/campus/shirokane/#anchor1>
- 開催形態：対面＋オンライン（Zoom）によるハイフレックス
*発表者は原則、現地参加。ただし、海外からはオンラインによる発表が可能。
- 参加費等：会員・一般2,000円 学生・院生1,000円
- 交流会：無料
*昼食の時間帯を長めに設定し交流会を開催します。
*ランチボックス(1,600円)をご希望の方は参加登録時にPeatixでご注文ください。
- 主催：公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）



参加者・発表者のみなさまへ

- 参加登録期限：9月29日（日）23:00
- 参加登録：<https://peatix.com/group/7506961>（Peatix：日本美術教育連合）
*参加登録にはPeatixのアカウントが必要です。
- 各会場のZoomURLについて：
 - ・大会1週間前までに各会場のZoomURLを全ての参加者・発表者へ登録いただいたメールアドレスへお送りします。inseajp.research@gmail.comからのメールを受信できるよう設定してください。*●は@に変更してください。
- 研究発表概要集について：
 - ・全参加者へデータで配布します。各位、ダウンロードしてご覧ください。
 - ・大会前日までに研究局Webページへ研究発表概要集のデータファイル（閲覧制限あり）を掲載します。閲覧に必要なパスワードは、ご登録いただいたメールアドレスへ大会前日までにお知らせします。
 - ・大会当日、発表会場において研究発表概要集を1部500円で販売します。現金のみのお支払いとなります。
- 発表会場Wi-Fiについて：
 - ・発表会場では当日限定でWi-Fiに接続できます。IDとパスワードは受付時に配布します。また、eduroamもご使用いただけます。



発表者のみなさまへ

- 発表時間：口頭発表20分＋質疑応答5分
- 発表方式：スライド、動画等を用いたプレゼンテーション
◎Zoomにアクセスし画面共有をして発表してください。
◎接続確認は、8:45～9:15または昼食&懇親会の時間帯に各教室で行えます。
*発表者はPC等の端末を会場に持参してください。
*HDMI接続となりますので必要な方は変換プラグをご持参ください。
- 連絡先：inseajp.research@gmail.com

お問合せ

大会・大会会場・論文投稿について：研究局運営委員長 手塚千尋
inseajp.research@gmail.com
入会・発表資格について：事務局長 岩崎仁美
iwasaki.hitomi@i.hokkyodai.ac.jp
*●を@に変更してください。

第58回 日本美術教育研究発表会2024

2024(令和6)年10月6日(日)
会場: 明治学院大学白金キャンパス

Table with columns for time slots (8:45, 9:15, 10:05, 10:10, 10:35, 11:20, 11:25, 12:00, 14:30, 14:55, 15:00, 15:25, 15:30, 16:00, 16:30, 18:00) and rows for sessions (A-E) across different venues (A-E). Includes session titles, speakers, and affiliations.

■第58号 日本美術教育研究論集 2025■

—投稿案内・掲載要項—

研究論集編集委員会 立川 泰史

投稿要項

1 投稿ならびに掲載の条件

第58回日本美術教育研究発表会の発表者及び第57回発表者で論文未投稿者は、『日本美術教育研究論集第58号』に投稿できます。投稿論文の研究論集への掲載は、次の(1)～(7)の条件を全て満たしたものに限り、なお、年度内で筆頭著者として投稿できる論文は1本のみとします。

- (1) 投稿論文の題目（タイトル語句）と内容が、研究発表会の発表論考と同一であること。
- (2) 投稿原稿の内容が、未発表かつオリジナルなものであること（重複投稿の禁止）。
- (3) 投稿原稿の内容が、投稿された群において定義する下記の内容に適合していること。
 - A群（理論・実践研究論文）…独創性があり、学術的価値を有する知見が含まれた論文。
 - B群（実践研究報告等）…新規的な内容を含む、すぐれた美術教育実践研究の報告。
 - C群（研究ノート）…新しい研究テーマや解決すべき問題を展望的に紹介するもの。
- (4) 投稿原稿において、論文投稿規程にある書式、分量等が守られていること。
- (5) 掲載料を論文投稿〆切日時（2024年11月11日24：00）までに納入し添付していること。
- (6) 作品の図表・画像・VIDEO映像等の著作物、撮影した写真等の著作権や肖像権等について、投稿者が著作権者・出版社・所有者・本人または保護者等の許諾を証明できること（日本美術教育連合著作権規定への合意）。また、調査分析の内容や運び方等における妥当性及び信頼性及び調査対象者の人権等、研究倫理に即した論考であること。
- (7) 研究論集編集委員会による総合審査において、投稿原稿の掲載が妥当と判断されること。
※今号より、海外研究論文を特別枠にて公募しています。

2 論文査読

A群（理論・実践研究論文）3名、B群（実践研究報告等）・C群（研究ノート）2名が査読を行い、研究論集編集委員会での総合的な審議を経て掲載の可否を決定します（査読基準を参照）。

掲載が決定した論文は、編集委員会による「論評」を研究論集〈論評の部〉に掲載します。

3 原稿書式

A群・B群・C群ともに、本文／図版（写真・表・図等）及び、A群のみ必須の「英文サマリー」を含めて、下記の《書式・文字数》を厳守して下さい。

- (1) 1頁分の基本書式は、A4・横組・2段組、「23字×44行」×2段組＝2024字、とします。
但し、第1頁の1行目から2段取り（1段組に統合）で「題目（副題）、所属、氏名」（それらの英文表記またはローマ字表記も含む）を記載します。本文は、1頁目の10行目から2段組で書き始めます。当書式は研究局HP（後掲のQRリンク先）からダウンロード可能です。
- (2) 原稿では、共通の「項立て・見出し番号」として、以下の番号・見出し語のみとします。
- (3) 大項目 1. 2. 3. [全角数字]…、中項目 (1) (2) (3) …、小項目 ① ② ③…。
- (4) 引用文献は、文末脚注に〔著者名・『著書名』・刊行所・発行年・引用頁〕の順、引用論文は、〔執筆者名・「論文名」・『掲載誌名』・発行所・発行年・引用頁〕の順で、記述。

4 掲載料（事前納入）について

A群・B群・C群ともに、18,000円。8頁（C群のみ6頁も可）を原則とし、上限は12頁です。

2頁増すごとに6,000円を加算（奇数頁でも、余白頁を含み2頁増として計算）します。

よって、9～10頁では、24,000円、11～12頁では、30,000円となります。

カラーページが必要な場合は、1頁につき12,500円を加算します。抜き刷り（50部限定）は、8頁モノクロで7,000円。2頁増ごとに2,000円を加算します。抜き刷りのカラーページは、1頁ごとに2,000円を加算します。

※下記に納入し、利用明細書の画像ファイルを、論文の「投稿フォームメーカー」に添付します。

- (1) 口座記号番号：00170-1-86036（右寄せで記入） 郵便振込です。
- (2) 加入者名：公益社団法人 日本美術教育連合
- (3) ご依頼人：〒郵便番号・住所・氏名・電話番号・所属機関（現職かつ院生は、ひとつを選択）
- (4) 通信欄：例) 掲載料18,000円（8頁）＋増頁分6,000円（2頁増の場合）＝24,000円（計10頁）
- (5) 抜き刷り（50部）、カラー頁を希望する場合、通信欄にも明記し、必要金額を加算してください。
- (6) 掲載に至らない場合、納入した掲載料の内6,000円を引いた金額を返金します。

5 投稿内容と締め切り 2024（令和6）年11月11日（月） 24：00。

A群・B群・C群ともに次の①～⑫をフォームメーカー（後掲QRリンク先）から提出します。

- ①氏名、②所属、③投稿区分（群）、④論文題目、⑤日本美術教育連合著作権規定に関する同意、⑥メールアドレス、⑦連絡先住所、⑧カラー頁の有無、⑨抜刷希望の有無（50部東限定）、⑩論文ファイル（word・PDFの2種）、⑪掲載料入金証明書の画像ファイル、⑫「投稿者確認用ルーブリック」のチェック済みファイル

※投稿原稿は、完全原稿とし、締め切り期日以降の差し替え・変更は認められません。

※発行日は、2025（令和7）年3月31日を予定しています。

6 詳細説明：研究発表会で詳細を連絡します。時程・場所を二次案内で確認して下さい。

7 問 合 先：研究論集編集委員会 研究論集編集委員長 立川泰史（東京家政学院大学）

e-Mail：tachikawa@kasei-gakuin.ac.jp

8 各種ファイル・ダウンロードURL（投稿案内：inseajp-research.jimdofree.com）

論文書式／投稿規程／投稿者
用確認ルーブリック_QR 1



論文投稿用フォームメーカー_QR 2



■ 論文投稿規程の改定について ■

公益社団法人日本美術教育連合理事 研究局運営委員長 手塚 千尋

前号でご案内させていただいた通り、2024年度より論文投稿区分や査読体制が変更されます。それに伴い、論文投稿規程および論文投稿ループリックも変更となります。論文投稿に際しましては、投稿規程を改めてご確認の上、最新の論文投稿ループリックをご使用いただきますようお願い致します。改訂のポイントを含む投稿に関する詳細は、第58回日本美術教育研究発表会論文投稿者説明会（12：30～A会場）で説明します。今年度発表・投稿されない方もご参加いただけますので、ご不明点などがある方はご質問ください。

▶ 論文投稿規程・投稿者確認ループリックは、

連合ホームページ>研究局Webページ>論文投稿規程 でご確認いただけます。



「日本美術教育研究論集」論文投稿規程	
<p>1 論文の投稿資格（受理基準）</p> <p>(1) 論文投稿者は、単著・共著ともに公益社団法人日本美術教育連合の正会員である</p> <p>(2) 投稿論文の筆頭著者が、論文投稿年度における「日本美術教育研究発表会」の発表者である</p> <p>(3) 投稿論文の筆頭著者が、「日本美術教育研究発表会」の発表年度または翌年度のうちに投稿する</p> <p>(4) 正会員である論文投稿者が期日（投稿締め切り日）までに、年会費および本規程の定める論文掲載料を完納している</p> <p>2 投稿論文の範囲・内容</p> <p>(1) 投稿論文の内容が、美術教育に関する内容である</p> <p>(2) 投稿論文の内容及び研究手続きにおいて、人権及び研究倫理全般に抵触していない</p> <p>(3) 投稿論文の題目と内容が、日本美術教育研究発表会における発表内容と同じである</p> <p>(4) 投稿論文の内容が、未発表かつオリジナルの内容である（再投稿は次年度以降可）</p> <p>(5) 投稿論文の内容が、投稿された各部の下記の種別内容（A～C群）に適合している</p> <p>A 群（理論・実践研究論文）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 独創性があり、学術的価値を有する知見が含まれた論文。 ・ 研究の背景、目的、用いた研究方法（調査・分析の観点や手法）が明確に述べられ、結論や意義が考察されている。 <p>B 群（実践研究報告等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規的な内容を含む、すぐれた美術教育実践研究の報告。 ・ 単なる実践の紹介やハウツーではなく、実践の価値や意義が論じられている。 <p>C 群（研究ノート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 美術教育分野における新しい研究テーマや解決すべき問題を展望的に紹介するもの。 ・ 原著論文や実践研究報告までには至っていないが、ある程度まとまった研究や調査の結果を記述したもの。 <p>3 掲載の条件</p> <p>(1) 投稿論文が、投稿時にエントリーした論文区分（A 群・B 群・C 群）の内容に適合している</p> <p>(2) A 群・B 群・C 群ともにテキスト・図版等について事項4に示す「論文の書式」を厳守している</p> <p>(3) A 群の投稿論文は「英文サマリー」を有し、投稿者の責任に基づきネイティブチェック等を通して、当該論文の概要を適切に記している</p> <p>(4) 投稿者（論文著者）は、「公益社団法人日本美術教育連合 著作権規定」に示される全事項に合意し、「著作者による保障等（第6条）」に準拠して次の事項①～④を確認している</p> <p>① 第三者の著作権、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、ドメイン・ネーム及びその他の知的財産権並びにこれらの出願または登録に関する権利等を侵害していないこと。</p> <p>② 本著作物が二重投稿でない（もしくは過去に一切公表されたことがない）こと。</p> <p>③ 本著作物が共同著作物である場合には、本人への投稿を行うにあたり、当該共同著作物の他の著作者全員の同意を取得していることを保障できる。本著作物において第三者の著作物を引用する場合には、出典を明記している。</p> <p>④ 研究倫理に反していない、人権に配慮している。（投稿時においては、大学等の研究倫理委員会の承認、または調査対象者の人権・肖像権・個人情報等に関する責任の所在が投稿者に</p>	<p>帰することを保証できる。）</p> <p>4 論文の書式</p> <p>(1) A 群・B 群・C 群ともに、本文および図版（写真・表・図等）、及びA 群のみの「英文サマリー」を含め、次に示す文字数、表記の形式をとる</p> <p>① 1 頁分の構成と文字数は、A4 判・横書き・2 段組、23 字×44 行×2 段=2024 字</p> <p>② 8 頁（C 群のみ6 頁も可）を原則とし、12 頁を上限とする</p> <p>③ 題目（副題）、所属、氏名は、第 1 頁の 1 行目から 2 段組を 1 段組に統合して記載し（題目の英語表記、所属、氏名の英語表記も含む）、本文は 10 行目から 2 段組で書き始める</p> <p>※ 現職をもち大学院等に所属する場合は、どちらか一方の所属を選択して記す</p> <p>※ 学部・大学院に所属する学生は、学年（年次）も記す</p> <p>※ 論文作成にあたっては、原稿テンプレートをホームページよりダウンロードして使用すること</p> <p>④ 共通の項立て・見出しを用い、以下の番号と見出し語のみを使用する</p> <p>大項目 1, 2, 3, [全角数字] …、中項目 (1) (2) (3) …、小項目 ① ② ③…</p> <p>⑤ 図表は、十分な解像度（印刷実寸で 300～350dpi）があり、グレースケール印刷でも細部まで判別できる（図表等の画像データは、掲載確定後に本文テキストと別フォルダにて提出を求め）</p> <p>⑥ 脚注（引用・参考文献含む）は、文末脚注とすること</p> <p>引用著書は、著者名・「著書名」・刊行所・発行年・引用頁（例：pp.1-3, p.6）</p> <p>引用論文は、執筆者・「論文名」・「掲載誌名」・発行所・発行年・引用頁</p> <p>⑦ 投稿後のカラー頁への変更及びその逆への変更は、原則として認められない</p> <p>5 論文の掲載料</p> <p>(1) A 群・B 群・C 群の掲載料は、一般（給与を得ている内地留学生等を含む）、院生・学生ともに一律 18,000 円とする</p> <p>(2) 8 頁から 2 頁増ごとに 6,000 円を加算（高教員の場合でも余白頁を含めて 2 頁増として計算）</p> <p>（例）10 頁では、24,000 円（9 頁でも同じ）</p> <p>12 頁では、30,000 円（11 頁でも同じ）</p> <p>(3) カラーページの場合は、1 頁につき 12,500 円を加算</p> <p>(4) 抜き刷り（一律 50 部）は、8 頁モノクロで 7,000 円、2 頁増ごとに 2,000 円を加算する</p> <p>抜き刷りのカラーページは、1 頁ごとに 2,000 円を加算する</p> <p>(5) 論文掲載料は下記の所定口座に納入し、送金証明書（利用明細書のコピー等）を投稿論文に同封する</p> <p>① 口座記号番号：0 0 1 7 0 -1 -8 6 0 3 6（右寄せで記入） 郵便振込</p> <p>② 加入者名：公益社団法人日本美術教育連合</p> <p>③ ご依頼人：郵便番号、住所、氏名、電話番号、所属</p> <p>④ 通信欄：例）掲載料 18,000 円（8 頁）</p> <p>＋増頁分 6,000 円（2 頁増の場合）＝24,000 円（計 10 頁）</p> <p>※ 抜き刷りを希望の場合はその旨明記し、必要な金額を加算</p> <p>(6) 査読の結果、掲載に至らない場合は、納入した掲載料の内 6,000 円を引いた金額を返金する</p> <p>6 査読要領</p> <p>(1) 査読審査においては、A 群：主査 1 名、副査 2 名、B 群・C 群：主査 1 名、副査 1 名で査読される。</p> <p>(2) 査読にあたっては、本規定による、1 論文の投稿資格、2 投稿論文の範囲・内容、3 掲載の条件、4 論文の書式などの要件・要領を全て満たしていることを考慮する。</p>

(3) 学術的論考としての一般的な基準（問題意識、研究目的・方法の妥当性や信頼性、主題内容の新規性・有用性、言語表記や構成の論理性、文献の扱い、倫理指針）に問題がないことを確認する。

(4) 査読者は投稿区分別の評価観点に基づき以下の一つに判定し、付随意見を査読報告書に記入して論集編集委員会に報告する。
 「A」：掲載（投稿者は、査読者の許可なく投稿原稿に一切の変更を加えられない）
 「B」：条件付き掲載（修正を条件に掲載可）とする。投稿者は査読意見に沿って指摘箇所を修正する。但し、査読者が指摘した箇所または内容と異なる修正、論文の趣旨に係る大幅な内容の変更や加筆は加えられない。また、掲載確定後の著者校正においても同様とする）
 「C」：掲載不可（論考内容や書式等に容易に修正できない問題、掲載条件の不履行等を含む）

(5) 理事および運営委員で構成される論集編集委員会は、査読結果に基づき以下の判定を行う。

A群の場合は、3名の査読者の判定結果を下記に示す要領に基づいて総合的に判定する。
 「A」：AAA（掲載）
 「B」：AAB（条件付掲載）・AAC（条件付掲載）・ABB（条件付掲載）
 ABC（条件付掲載）・BBB（条件付掲載）・BBC（条件付掲載）
 「C」：ACC（掲載不可）・BCC（掲載不可）・CCC（掲載不可）

B群・C群の場合は、2名の査読者の判定結果を下記に示す要領に基づいて総合的に判定する。
 「A」：AA（掲載）
 「B」：AB（条件付掲載）・BB（条件付掲載）
 「C」：AC（掲載不可）・BC（掲載不可）・CC（掲載不可）

(6) 掲載不可となった論文は、「日本美術教育研究発表会」で発表した翌年度まで再投稿できる。論文は新規投稿として受け付け、査読審査を行う。ただし、年度内で筆頭著者として投稿できる論文は1本とする。尚、共著者（として投稿する場合）はこの限りではない。

(7) 投稿者は、査読結果に関する異議申し立て等について、書面を通じてのみ論集編集委員会に問い合わせることができる（書式不問）。

(8) 投稿した群の変更やそれにより生ずる査読結果の改訂は、原則として認められない。

令和6年8月25日 一部改訂

『日本美術教育研究論集』 投稿者確認用ルーブリック

論文投稿の際には、下表の1～5の全項目をご自身でチェックし、査読要領をご確認ください。

✓	1	論文の投稿資格（受理規定）について
	1.1	論文投稿者は、単著・共著ともに公益社団法人日本美術教育連合の正会員である。
	1.2	投稿論文の筆頭著者が、論文投稿年度および投稿前年度において「日本美術教育研究発表会」の発表者である。
	1.3	正会員である論文投稿者が、期日（投稿締め切り日）までに「年会費」及び本規程の定める「論文掲載料」を完納している。（4.5参照）
	1.4	「論文掲載料」の納入証明（利用明細書）を論文投稿フォーマットに添付した。
✓	2	論文の投稿範囲・内容について
	2.1	投稿論文の内容が、美術教育に関する内容である。
	2.2	投稿論文の内容及び研究手続きにおいて、人権及び研究倫理全般に抵触していない。
	2.3	投稿論文の題目と内容が、日本美術教育研究発表会における発表内容と同じである。
	2.4	投稿論文の内容が、未発表かつオリジナルの内容である（再投稿は次年度以降に可）。
	2.5	投稿論文の内容が、下記に示すA～C群の内容に適合している。 A群（理論・実践研究論文） ・ 独創性があり、学術的価値を有する知見が含まれた論文。 ・ 研究の背景、目的、用いた研究方法（調査・分析の観点や手法）が明確に述べられ、結論や意義が考察されている。 B群（実践研究報告等） ・ 新規的な内容を含む、すぐれた美術教育実践研究の報告。 ・ 単なる実践の紹介やハウツーではなく、実践の価値や意義が論じられている。 C群（研究ノート） ・ 美術教育分野における新しい研究テーマや解決すべき問題を展望的に紹介するもの。 ・ 原著論文や実践研究報告までは至っていないが、ある程度まとまった研究や調査等の結果を記述したものである。
✓	3	論文のサマリーと倫理的配慮について
	3.1	A群への投稿論文においては、「英文のサマリー」を有しており、かつ、当該論文の概要を適切に記している（ネイティブチェック推奨）。
	3.2	「公益社団法人日本美術教育連合 著作権規定」に示される全事項に合意している。「著作者による保障等（第6条）」に準拠し、次の事項を確認している。 ① 第三者の著作権、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、ドメイン・ネーム及びその他の知的財産権並びにこれらの出願または登録に関する権利等を侵害していないこと。 ② 本著作物が二重投稿でない（もしくは過去に一切公表されたことがない）こと。 ③ 本著作物が共同著作者である場合には、本人への投稿を行うにあたり、当該共同著作物の他の著作者全員の同意を取得していることを保障できる。本著作物において第三者

	の著作物を引用する場合には、出典を明記している。
✓	4 論文の書式について
4.1	(1) 1頁分の構成と文字数は、A4判・横書き・2段組、23字×44行×2段＝2024字
4.2	(2) 8頁（C群のみ6頁も可）を原則とし、12頁を上限とする。
4.3	(3) 題目（副題）、所属、氏名は、第1頁の2段組を1段組に統合して記載する。ここに英語表記の題目、所属と氏名の英文表記も含む。 本文は、10行目から2段組で書き始める。 ※ 現職をもち大学院等に所属する場合は、どちらか一方の所属を選択して記す。 ※ 学部・大学院に所属する学生は、学年（年次）も記す。 ※ 論文作成にあたっては原稿テンプレートをダウンロードして使用すること
4.4	(4) 共通の項立て・見出しを用い、以下の番号と見出し語のみを使用する。 大項目 1. 2. 3. [全角数字] …、中項目 (1) (2) (3) …、小項目 ① ② ③…
4.5	(5) 図表は、十分な解像度（印刷実寸で300～350dpi程度）がある。 図表番号・キャプション等が投稿書式に即して付されている。
4.6	(6) 脚注（引用・参考文献含む）は、文末脚注とする。 引用著書は、著者名・「著書名」・刊行所・発行年・引用頁（例：pp.1-3, p.6） 引用論文は、執筆者・「論文名」・「掲載誌名」・発行所・発行年・引用頁
✓	5 論文の掲載料について
5.1	A群・B群・C群ともに掲載料は、一般（給与を得ている内地留学生等を含む）・学生とも一律18,000円とする。
5.2	8頁から2頁増ごとに、6,000円を加算（論文の総頁数が奇数頁の場合でも、余白頁を含めて2頁増として計算） (例) 10頁では、24,000円（9頁でも同じ） 12頁では、30,000円、(11頁でも同じ)
5.3	カラー頁の場合は、1頁につき12,500円を加算（投稿後にカラー頁への変更は不可）
5.4	抜き刷り（一律50部）は、8頁モノクロで7,000円、2頁増ごとに2,000円を加算 抜き刷りのカラーページは、1頁ごとに2,000円を加算
5.5	論文掲載料は下記の所定口座に納入し、送金証明書（利用明細書のコピー等）を同封 ① 口座記号番号：00170-1-86036（右寄せで記入）郵便振込 ② 加入者名：公益社団法人 日本美術教育連合 ③ ご依頼人：郵便番号、住所、氏名、電話番号、所属 ④ 通信欄：例) 掲載料 18,000円（8頁） 増頁分 6,000円（2頁増の場合）＝24,000円（計10頁） ※ 抜き刷りを希望の場合は、その旨明記し、必要額を加算
5.6	査読の結果、掲載に至らない場合は、納入した掲載料の内6,000円を引いた金額を投稿者に返金することを承諾する

■ 査 読 要 領 ■

査読審査においては、A群：主査1名、副査2名、B群・C群：主査1名、副査1名で査読される。			
1	区分	査読者数	備考
	A群：理論、実践研究論文	3名	8-12頁 主査1名、副査2名
	B群：実践報告	2名	8-12頁 主査1名、副査1名
	C群：研究ノート	2名	6-12頁
2	査読にあたっては、本規定による、1論文の投稿資格、2投稿論文の範囲・内容、3掲載の条件、4論文の書式などの要件・要領を全て満たしていることを考慮する。		
3	学術的論考としての一般的な基準（問題意識、研究目的・方法の妥当性や信頼性、主題内容の新規性・有用性、言語表記や構成の論理性、文献の扱い、倫理指針）に問題ないことを確認する。		
4	査読結果の判定規準は、以下の3段階とする。 「A」：掲載（投稿者は、査読者の許可なく投稿原稿に一切の変更を加えられない） 「B」：条件付き掲載（修正を条件に掲載可）とする。投稿者は査読意見に沿って指摘箇所を修正する。但し、査読者が指摘した箇所または内容と異なる修正、論文の趣旨に係る大幅な内容の変更や加筆は加えられない。また、掲載確定後の著者校正においても同様とする） 「C」：掲載不可（論考内容や書式等に容易に修正できない問題、掲載条件の不履行等を含む）		
	各群における査読者の判定結果は、主査によって下表のように総合的に評価され、論集編集会議において最終的に判断・承認される。		
5	【A群】		
	A AAA（掲載）	—	—
	B AAB（条件付掲載） ABC（条件付掲載） C ACC（掲載不可）	AAC（条件付掲載） BBB（条件付掲載） BCC（掲載不可）	ABB（条件付掲載） BBC（条件付掲載） CCC（掲載不可）
5	【B群・C群】		
	A A（掲載）	—	—
	B AB（条件付掲載） C AC（掲載不可）	BB（条件付掲載） BC（掲載不可）	AB（条件付掲載） CC（掲載不可）
6	掲載不可となった論文は、「日本美術教育研究発表会」で発表した翌年度まで再投稿できる。論文は新規投稿として受け付け、査読審査を行う。ただし、年度内で筆頭著者として投稿できる論文は1本とする。尚、共著者（として投稿する場合）はこの限りではない。		
7	投稿者は、査読結果に関する異議申し立て等について、書面を通じてのみ論集編集委員会に問い合わせることができる（書式不問）。		
8	投稿した群の変更やそれにより生ずる査読結果の改訂は、原則として認められない。		

■ 査読評価規準について ■

論集編集副委員長 池田 吏 志

今年度から、『日本美術教育研究論集』への原稿の投稿と査読に関し、次の二つのことを整備しました。一つは、A群、B群、C群の定義を示し、各群の論文等の性質を再整理したこと、もう一つは、各群の定義に基づき、査読の際の評価規準を定めたことです。このことにより、私達が学校で行う授業と同じように、目的と評価が対応すること、さらに、児童生徒と教師がめあてと評価方法を共有するように、投稿者と査読者が、各群の定義と評価規準を共有できることをめざしました。

原著論文、実践研究報告、研究ノートの作成には、いずれも膨大なエネルギーを要します。皆さんの情熱と努力、そして何より産出された知がうまく査読者や論集の読者に伝わるよう、投稿者の皆さまには、次に示す各群の定義と評価規準をご確認・ご一読の上、執筆・投稿いただきますようお願いいたします。

各群の定義と査読における評価規準

A群：理論・実践研究論文（原著論文）		
定義	<ul style="list-style-type: none"> ・独創性があり、学術的価値を有する知見が含まれた論文。 ・研究の背景、目的、用いた研究方法（調査・分析の観点や手法）が明確に述べられ、結論や意義が考察されている。 	
観点別 評価規準	①独創性の有無	論文に、新たな知見が含まれている。
	②背景と目的の明確さ	研究を行う今日的な課題や問題の所在、先行研究のレビュー、リサーチギャップなどが示され、研究の目的が明確に述べられている。
	③研究方法の妥当性	目的に適合する研究方法（背景となる理論枠組み、資料やデータ、実践方法、分析方法など）が示されている。
	④論文の意義	目的に対応した結果や結論が示され、その上で、学術的／社会的／政治的意義や美術教育分野への示唆や貢献、今後の課題などが考察・記述されている。
	⑤書式の遵守	執筆規定にそった論文形式が用いられている。
	⑥研究倫理	研究倫理が守られている。
B群：実践研究報告		
定義	<ul style="list-style-type: none"> ・新規的な内容を含む、すぐれた美術教育実践研究の報告。 ・単なる実践の紹介やハウツーではなく、実践の価値や意義が論じられている。 	
観点別 評価規準	①新規性	これまでに示されてこなかった新しいテーマ、ねらい、カリキュラム、題材、教材、指導・学習／探究方法、材料用具、活動環境、対象者などが提案されている。
	②背景や意図の提示	筆者が行った実践の背景や意図、理由などが述べられている。
	③実践の的確な描写	実践の目的に応じた、実践方法（実践の要点、指導上の工夫、参加者の学習／探究の姿など）が焦点化して述べられている。
	④実践の価値や意義	筆者が行った実践の教育的な価値、含意、今後の課題、展望などが考察され、的確に述べられている。
	⑤書式の遵守	執筆規定にそった論文形式が用いられている。
	⑥研究倫理	研究倫理が守られている。
C群：研究ノート		
定義	<ul style="list-style-type: none"> ・美術教育分野における新しい研究テーマや解決すべき問題を展望的に紹介するもの。 ・原著論文や実践研究報告までは至っていないが、ある程度まとまった研究や調査等の結果を記述したもの。 	
観点別 評価規準	①テーマの適合性	新しい研究テーマ、解決すべき問題、ある程度まとまった研究や調査の結果等の内容が含まれている。
	②展望的/資料的価値	美術教育研究における現代的・新規的な問題や可能性の提起もしくは／なおかつ、先行研究や事例、資料、史料、視察、観察などの調査・分析による資料的に価値のある知見が示されている。
	③記述/調査方法の妥当性	一貫した論旨で主張されているもしくは／なおかつ適切な方法で収集・調査・整理が行われている。
	④意義	展望や資料等の現代的な意義が明確に述べられている。
	⑤書式の遵守	執筆規定にそった論文形式が用いられている。
	⑥研究倫理	研究倫理が守られている。

事業局より

事業局 三 澤 一 実

■造形・美術教育力養成講座2024

「越境し拡張する美術」を造形・美術教育力養成講座の基本テーマとし、本年度は全3回の連続講座を開催します。

第1回 「“計画しない！” 偶発と共創の場のデザイン -VIVISTOP NITOBEの取り組み-」

VIVISTOPでの実践紹介と、“つくる”を通じた環境づくりについて考えるワークショップ等

講 師：新渡戸文化学園 教諭／VIVISTOP NITOBEのチーフクルーの山内佑輔先生

日 時：9/22（日）13：00～15：00 会場：VIVISTOP NITOBE 東京都中野区本町6-38-1

第2回 「映画美術監督に学ぶ映像表現との出会い」

講 師：金田克美（映画美術監督）

日 時：11/30（土）13：00～15：00 会場：武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス805室

第3回 「文化芸術×教育×生涯学習 ～障害児者との活動から～」（仮）

講 師：柴崎由美子（エイブル・アート・ジャパン代表理事）

日 時：12/8（日）13：00～15：00 会場：武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス503室

参加方法 HPにて参加案内を致します。（peatixによる申し込み <https://x.gd/uBK4h>）

参加人数 各講座30名を予定

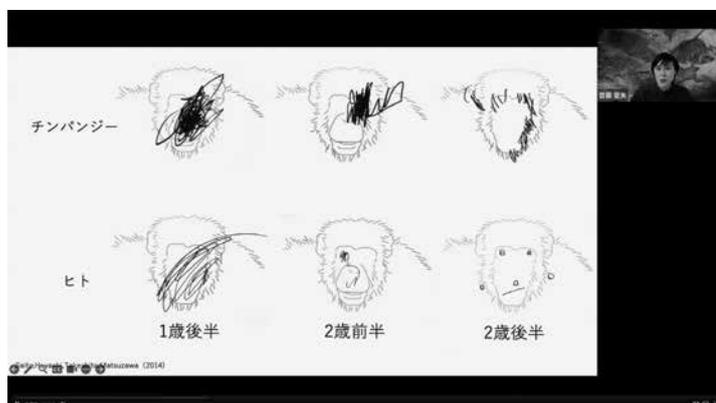
参加費 一般 3,000円 会員/学生 2,000円



■美造形美術教育フォーラム2024

9月1日（日）に京都芸術大学教授 齋藤亜矢先生を講師に迎え、「ヒトはなぜ絵を描くのか～表現の原点について考える」が開催されました。内容については次回のニュースで取り上げます。

（講演のスライドから）



■全日本美術教育会 議設立準備大会

10月6日（日）日本美術教育連合研究大会終了後、16：30から明治学院大学本館4階1456教室で全日本美術教育会議を開催いたします。この会議は様々な美術教育に関わる団体、企業、個人が、次期学習指導要領に対しての要望や意見を出し合い、それらを取りまとめて文部科学省に提出したり、また恒常的に美術教育に関する議論をしていく会議体として設立を目指しております。関心のある方は誰でも参加できます。参加希望者は右サイトからお申し込みください。

<https://x.gd/gWZ2K>



国際局より

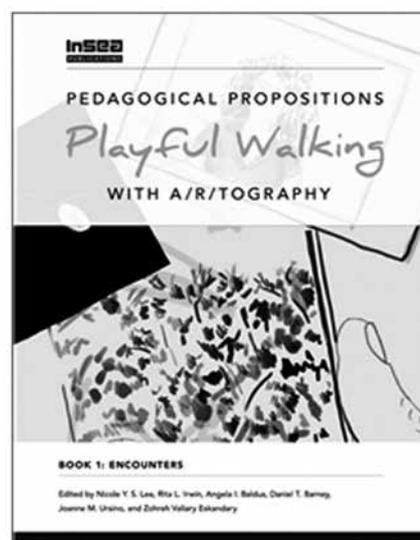
■ InSEA情報 (ホームページから) ■

国際局担当理事 西村 德行

InSEAには80以上の国や地域から会員が参加しています。日本の会員数も多く、8月にホームページ (<https://www.insea.org>) を訪れた国別一覧では、アメリカに続く2位でした。ここではホームページに掲載された情報から、いくつかご紹介します。

□ 『Playful Walking with A/r/tography』

InSEA Publicationsから、3冊のオープンアクセス書籍が発表されました。第1巻では、世界中の人々が、a/r/tographyで歩きながら、創造的な取り組みを刺激するような提案やアイデアに焦点が当てられています。第2巻では、a/r/tographersによる、より深い学術的立場からの教育的提案が取り上げられています。最後に第3巻では、教育的命題の視点からカリキュラムの実践をどのように再考できるかが探られています。3巻では、ウォーキング・メソッド、創造的な取り組み、そして学術的洞察の交差点に教育的命題を位置付けています。この3巻の本はすべて、InSEAのウェブサイトからダウンロードできます。



『Playful Walking with A/r/tography』
第1巻表紙 (InSEAホームページから)

□美術教育ヴィジュアルジャーナルIMAG16号「創造的プロセスを育む持続可能で包摂的な環境」が2024年3月に発刊されました。ビジュアルエッセイでは、芸術教育者が学習環境に多様性や他とのつながりをどのように生み出しているか、様々な視点から示されています。なおIMAGは創刊10周年をむかえ、本号から新しい名称「IMAG: International VISUAL JOURNAL for Art Education」となりました。IMAGはオープンアクセスで、InSEAホームページからダウンロードできます。なおIMAGの編集は、本連合国際局局員の佐藤真帆先生が担当されています。



IMAG 16号 表紙 (InSEAホームページから)

事務局より

■事務局便り■

事務局長 岩 崎 仁 美

□会員の異動

〈退会者〉

向田識弘様 佐藤真樹様

(これまで連合を支えていただき、まことにありがとうございました)

〈入会者〉

ルミコ・ハーモニー様 山田空様 朝地信介様 古川拓明様

岩瀬優太郎様 中玲蘭様 山口秋音様 山井千彰様

(これからどうぞよろしくお願ひいたします)

□10月6日(日)に第58回日本美術教育研究発表会2024を開催いたします!

第58回日本美術教育研究発表会2024(文化庁後援)を今年も開催いたします。エントリーいただきました会員のみなさまにおかれましては、まことにありがとうございました。本年度は、国内からは29件、海外からは4件の発表申込みがあり、多彩な発表が期待されます。会員のみなさまにおかれましては、ぜひ会員外の方もお誘いいただき、本研究発表会を盛り上げていただきますようお願い申し上げます。

□令和6(2024)年度会費納入のお願い

本年度会費納入のお願い

令和6(2024)年度会費 6,000円 を 納入してください。

※(公社)日本美術教育連合の会計年度は、毎年4月1日から翌年4月末日までです。納入期限が過ぎておりますので、まだお納めでない方はお早めの納入をお願い申し上げます。

【郵便振替】

(公社)日本美術教育連合 口座番号00170-1-86036

【ゆうちょ銀行以外の金融機関(ネット銀行を含む)からの送付先】

《銀行名》ゆうちょ銀行《支店番号》019《預金種目》当座《口座番号》0086036

- *同封の振り込み用紙をご利用ください。(恐れ入りますが手数料はご負担ください。)
- *当連合からお送りする振込票には、確認のため次年度分の納入費が記載されています。
- *過去3年以上会費未納の方につきましては、今回ご入金いただけない場合「除名」という対応をとらざるを得ません。ぜひ納入にご協力ください。なお今回のお願いと行き違いです。に納入済みの方には、失礼をお許しください。

□お問い合わせ先:公益社団法人日本美術教育連合 事務局 岩崎仁美

〒068-8642 岩見沢市緑が丘2丁目34-1

北海道教育大学 岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科 美術文化専攻 美術教育研究室

Tel & Fax :0126-32-0367 (研究室直通)

E-mail :iwasaki.hitomi@i.hokkyodai.ac.jp